

茅ヶ崎市立汐見台小学校

研究テーマ：算数科を通して、自分の考えをもち表現できる子どもの育成

1 実践の目的

研究実践を行う前に、職員の話し合いや子どもへのアンケートなどによって、本校の子どもの実態把握を行った。その結果、①算数科の学力差が大きく、算数ができないことで自己肯定感が下がっている子どもが見受けられる、②指示されたことは素直に行うことができるが、自分で考えて行動する力が弱い、③自分の考えをもっていても、積極的に表現し、友達とかかわり合いながら学びを深めていく力が弱い、というような課題が見えてきた。こうした課題を解決していけるような研究にし、また、子どもの多様な表現を認めながら、豊かな人間性を育てていきたいという教師の願いを皆で共有し、研究テーマを「算数科を通して、自分の考えをもち表現できる子どもの育成」とし、研究を進めていくこととした。

2 実践の内容

(1) 校内研究で大切にしたこと

自然なかかわりを日々積み重ねていく中で、教師と子ども、子ども同士、教師と教材、教師と教師のつながりを、ゆっくり、じっくり、育んでいきたい、また、研究が終わっても各自の中に残るものにしたいという願いから、本校では、大切にしたいことを適宜、共通理解しながら研究を進めた。

大切にしてきたことに、「教師の自主性を尊重したい」、「同僚性を深め、教師と教師をつな

ぎたい」、「ゆとりある教育課程のなかで、教師・子ども・教材と向き合う時間を確保したい」などが挙げられる。こうした事柄を全体で共有することで、温かい雰囲気の中で教師が互いにつながり、刺激し合いながら、主体性をもって研究に取り組めると考えた。

(2) 研究の取り組み

公開授業の1か月前に、全職員で行う「全体研究日」を設定した。授業者は指導案を提案し、参加者はそれに対して質問やアドバイスをを行った。公開授業の2週間前には「ブロック研究日」を設定し、低・中・高・特別支援学級ブロックに分かれて話し合いを行った。「全体研究日」よりも人数が少なくなる分、授業や悩み事について話したり、よりフランクに語り合えたりするよさが見えてきたりした。

「全体研究日」、「ブロック研究日」を経て、公開授業となるので、協議会も活発に意見が交わされた。協議会后には、参観者が授業の感想や学んだことなどを思い思いに書く「その場省察」を行った。その後、「その場省察」を冊子にまとめ、授業者に渡した。

また、授業とは別に、前・後期1回ずつ算数アンケートを実施した。子どもに対して、「算数の授業で、自分の考えをもてていますか」と「算数の授業で、自分の考えを友だちに説明できていますか」という質問をした。教師に対しては「算数の授業で、自分の考えをもてるような手だてを立てていますか」と「算数の授業で、自

分の考えを友だちに伝えたり、説明したりする場面を設定していますか」という質問をした。研究テーマに直結する質問をすることで、「考えをもつこと」「表現すること」を、子どもも教師も意識できる機会にしたいと考えたからである。また、アンケートを取る際には、子どもに「分からない」も立派な考えであるとし、それを皆の前で言えることも立派な表現であることを確認した。それによって、算数科に難しさを感じている子にも、「分からない」と言えることもよいことなんだと、伝えることができたと思う。

研究の取り組み



3 実践の成果

(1) 教師の変容

この3年間の研究で教師の意識は大きく変化した。算数アンケートの結果からも、教師一人一人が、「自分の考えをもてるような手だてを立てる」、「自分の考えを表現できる場面設定をする」を意識し、授業改善に努めてきたことがわかる。また研究を行う上で大切にしてきた教師の自主性や同僚性が、普段の授業のみならず学校の様々な場面や行事などでも見られるようになってきた。運動会の進め方や委員会活動においても、子どもの声を十分に反映させて、改善を行いながら進められるようになってきている。こういった教師の変容が、学校の変容にも繋がっていると感じる。

(2) 子どもの変容

研究の成果もあり、子どもにも大きな変容が見られるようになってきた。算数アンケートで

も、「算数の授業で自分の考えをもてる」、「自分の考えを友達に説明できる」を「よくできる」「できる」と答える子どもが年々増えてきており、今年度には全体の7割以上の子どもが、算数の授業を通して、自分の考えをもち、それを説明できるようになってきたと回答している。

4 今後の展開

(1) 残された課題への対応

自分の考えをもつことや説明することに苦手意識をもっている子どもが未だ一定数いることも事実である。その事実と向き合いながら、そうした子どもをどのように支援していくのか、手だてや働きかけなどを、研究で引き続き検討していきたい。また先述したように、本校の子ども自己肯定感を高めたいという教師の願いもある。子どもが主体的に楽しく取り組める授業の場面設定や、普段から子どもの言葉にしっかりと耳を傾け、子どもが作る授業・行事・学校を実現していきたい。

(2) 今後の研究の方向性

今後の研究では、今まで取り組んできたことを継続し、実践面を強化しながら取り組み続けていきたいと考えている。また、本校では、「自分の考えをもち表現できる子ども」の先に、「豊かな人間性・自律性」があると考えている。教科やテーマが変わろうと、その部分において目指すところは同じだと考えている。しっかりと目指すべきところを意識しながら研究を進めていきたい。

